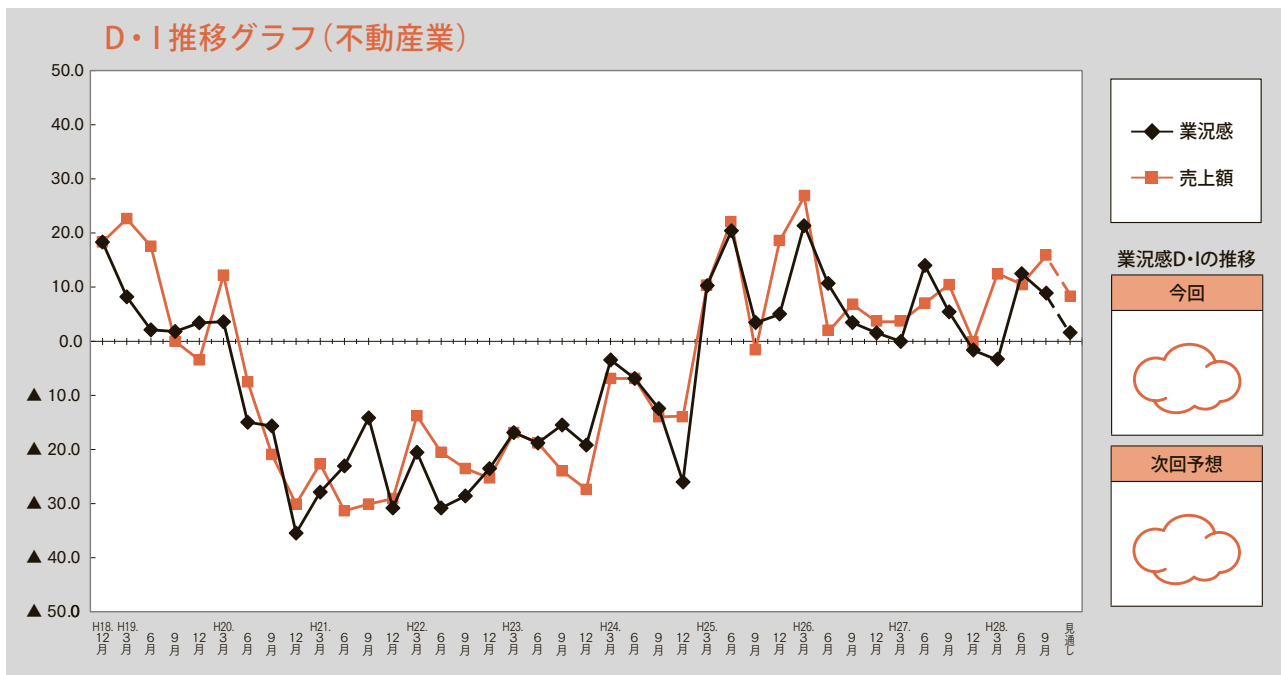


# 不動産業

Real estate industry

# 業況感やや悪化



## 1 今期 (平成28年7 - 9月期)

今期の業況感は8.9 (前期12.3)となり、4期ぶりに大幅な改善を見せた前期に比べ、今期やや悪化した。D I値はプラスを維持。項目別でみると、売上額、収益ともに前期を上回っており、事業の実態としては、業況感ほど悪くないと思われる。在庫は5期連続D I値マイナスとなっており、不足感が継続している状況。

## 2 来期の予想 (平成28年10 - 12月期)

売上額、収益ともに悪化が予想され、業況感も今期から7.1ポイント悪化するものの、仕入価格の改善も期待され、かろうじて業況感D I値はプラスを維持し、1.8となっている。在庫の不足感や雇用もやや緩和され、資金繰りも安定。その他のD I値もプラスが維持され、全体として無難に推移することが予想される。

## DI値の推移 (過去1年と3ヶ月後の予想)

	H27. 9月期	H27. 12月期	H28. 3月期	H28. 6月期	H28. 9月期	来期 見込み
業況感	5.3	▲ 1.8	▲ 3.5	12.3	8.9	1.8
売上額	10.5	0.0	12.3	10.5	15.8	8.8
収益	5.4	5.3	15.8	7.0	14.0	7.0
販売価格	▲ 1.8	0.0	1.8	▲ 1.8	▲ 1.8	7.0
仕入価格	▲ 5.3	▲ 3.5	3.5	▲ 5.3	▲ 3.5	1.8
在庫	▲ 1.8	▲ 5.3	▲ 5.3	▲ 3.5	▲ 5.3	▲ 1.8
資金繰り	1.8	1.8	▲ 3.5	7.1	12.3	12.3
人手	1.8	1.8	3.5	1.8	5.3	3.5
設備状況	-	-	-	-	-	-

## 業況調査メモ

熊本国税局が7月1日、今年1月1日時点の路線価を発表したが、県内の調査時点3729地点のうち、上昇したのは昨年のゼロから16地点に増えた。このうち15地点が鹿児島市内で、鹿児島中央駅東口周辺の中央町のほか、上荒田町などが入っている。上荒田は昨年5月の市立病院移転を契機にスーパー、コンビニ、ファストフード店、薬局などが相次いで進出している。JR九州や大和ハウス工業による高価格の分譲マンション供給も開始および計画されている。電車通りを挟んで市立病院の真ん前のトークボウル跡地では24時間営業のスーパーの建設計画もあり、地価はさらに上がりそうだ。